



糖尿病の薬がわかる本

梶田 出 著

A5 176頁 2015年

本体 1,800円+税

[ISBN978-4-260-02160-9] 医学書院刊

評者 野村 卓生

関西福祉科学大学教授・理学療法学/
日本糖尿病理学療法学会代表運営幹事/
日本糖尿病療養指導士認定機構理事

糖尿病の治療薬は、おおまかにインスリン分泌促進薬、インスリン抵抗性改善薬、糖の排泄・吸収調節薬、インスリン製剤、インクレチン関連薬の5つに分類されます。本書は、著者の長年の診療経験に裏付けられた考え方のもとに、糖尿病治療のための薬物に関する処方・服薬指導の基本、治療薬の特徴、2型糖尿病および1型糖尿病患者への処方の具体例がまとめられています。薬物の名称もできるだけ商品名を用いており、また、療養指導を行う上でも重要なポイントである①少量開始、②低血糖管理、③体重増加予防、④膵β細胞保護の4点を念頭に置いて実際の臨床へつなげることを意識して執筆されています。

第I章では、糖尿病治療薬の処方・服薬指導の基本など、療養指導をも念頭に置いた治療方針の考え方が実践的にまとめられ、コラムとして臨床上の注意点が補足されています。今さら聞けない素朴な質問をまとめたQ&Aは、日頃同じ疑問を持つ方の共感が得られると思います。

第II章「糖尿病治療薬の特徴」においては、糖尿病治療薬の異なる7種類の経口薬と2種類の注射薬の薬理作用の概要が図表を用いてわかりやすく解説され、それらの適応・禁忌、副作用と注意点がまとめられて

います。糖尿病患者の多くは、複数の糖尿病治療薬が処方されますが、薬の特徴を知ることによって、治療薬を組み合わせる理由が理解され、服薬指導に生かされられると思われます。

第III章となる「2型糖尿病患者への処方」では、同じように見える2型糖尿病において、発症機序や合併症の有無などによって、どのように糖尿病治療薬が処方されるのかがわかりやすく解説されています。

第IV章「1型糖尿病患者への処方」では、発症時期や進行、状態によって、薬物療法の方針が微妙に異なる1型糖尿病患者に対してインスリンの量や投与回数をどのように決定していくのかを、ライフステージや病態別に解説しています。握力や視力の低下によって、「単位設定メモリがよく見えない」「注射器が滑りやすく、うまくボタンを押せない」といった注射手技に困難が生じた場合の対処方法や、巻末の付録にはカートリッジ交換型(ペン型)注射器の特徴なども示されています。

本書は、糖尿病療養指導に従事している方々はもちろんのこと、糖尿病が専門でない医師の方々にも参考になる実用性が重視された一冊です。